

雇用事例  
6

# 障害者職業能力開発校のフォローを受け、事務職で全盲の従業員を雇用

PROFILE

事業所

リコージャパン株式会社



■所在地／東京都中央区  
■事業概要  
デジタル複合機・プリンター・ネットワーク関連商品・消耗品の販売及び機器保守、アフターフォロー等

支援機関

支援 神奈川障害者職業能力開発校

本人

都筑夕貴さん (女性・24歳、障害の程度：1級)

先天性の未熟児網膜症により、左眼は物があるのがぼんやりわかる程度、右眼は全く見えない。外出時には白杖を使用している。

就職までの経緯

全盲の視覚障害者が事務職として活躍している例が少ないので、都筑さんは事務職にチャレンジしてみたいという強い希望を持っていました。その思いから、東京都立文京盲学校の高等部普通科を卒業後、神奈川障害者職業能力開発校のオフィスインフォメーションコースに入校。事務職に就くためのワープロ、表計算等のパソコン操作や電話対応の基本的スキルを1年間学びながら、就職活動を行い、約100社の面接を受けました。

リコージャパン(当時リコー販売株式会社)には、リコーグループの面接会にてエントリーし、2006年4月に入社しました。

就労支援機器 & 支援制度

活用した就労支援機器

- 画面読み上げソフト
- ICレコーダー (電話対応時のメモ代わりに使用)  
画面読み上げソフトは、高齢・障害者雇用支援機構による就労支援機器貸出し制度を利用。

経緯と雇用状況

雇用の経緯

面接会を開催し都筑さんを雇用

リコーグループでは障害者雇用を推進するため、ハローワークの協力のもと、面接会を開催。当時の採用担当者は、都筑さんの明るさ、前向きな姿勢に将来性を見出し、雇用実績のない全盲の視覚障害者を雇用することに踏み切ったと当時を振り返っています。

なお、リコージャパンでは、現在でも障害者雇用については通年で募集しており、事務職を中心に身体障害者と精神障害者を140名程度雇用しています。

支援機関の助言を得ながら受け入れ体制を整備

都筑さんの入社にあたっては、全盲の人の受け入れが初めてであったため、彼女にどのように接すれば良いか、また会社としてどのような準備をすれば良いか全く分からない状況でした。そこで、仕事だけでなく日常生活にいたるまで、一つ一つ都筑さんと相談しながら進めていきました。通勤に関しては、神奈川障害者職業能力開発校の先生に指導していただき、途中一回の乗り換えがある通勤経路を、問題なく単独通勤できるようになりました。また、事務所内での移動に慣れるための指導も開発校に依頼し、2日間ほどで単独移動できるようになりました。



雇用にあたって取り組んだ内容

1. 都筑さんの社内移動がスムーズに行えるよう、ビル管理会社と相談し、エレベータや給茶器、ゴミ箱等必要な部分に点字シールを貼付した。
2. 複合機を単独で操作できるように、操作部のタッチパネルに凹凸のあるシールを貼付した。
3. 従業員に対して、通路に椅子や物を出しっぱなしにしないことを伝えた。
4. 都筑さんがスムーズに電話を取次げるよう、部内メンバーに、席を離れる時と戻った時には、都度、都筑さんに声かけをすることを伝えた。
5. 部内メンバーの一日、一週間のスケジュールをメールや口頭で伝達するとともに、パソコン上でもメンバーのスケジュールを確認できるようにしている。
6. 必要とするサポートを都筑さんが部内メンバーに積極的にはたらきかけることにより、自然とサポートする雰囲気醸成されてきた。それを見習い、他部署の従業員も同じように接している。

現在の雇用状況

都筑夕貴さんの雇用状況	
勤務形態	嘱託社員
勤務時間	9:00～17:30 (週5日フルタイム・残業なし)
勤務内容	電話対応、社内便回収、会社説明会配布資料準備、社内への情報発信等人事採用部門のサポート業務

都筑さんは、社内外からの電話での問い合わせ対応、部内社内便の回収、会社説明会配布資料の準備、所属部署管理の会議室貸出し受付、面接室の清掃、月次の障害者雇用率算出、障害者リストの更新等各種採用業務のサポートを担っています。併せて、社内への情報提供のためのレポートを作成、配信。「つづちゃんレポート」として好評を博しており、現在98号まで発行しています。学生の動向や内定者フォロー等採用に関わるテーマから、風邪の予防方法といった季節に応じたテーマ、視覚障害者との接し方等自発的に考えたテーマをレポートにまとめて、周囲の人に役立つ情報を提供して



▲電話対応



▲社内便の回収

います。このレポートは、内定者に対してはブログ等を通じて発信しています。

また、社内外への障害者に対しては、母校で後輩への講話を行ったり、東京都教育委員会からの依頼を受けDVDに出演する等、積極的にPR活動を行っています。

業務を行うにあたって、手順を何度か教えてもらった後は、必要に応じて独自マニュアルを作成しています。



▲パソコンを使用したデータ管理



▲必要なサポートは部内メンバーに積極的にはたらきかける

\*インタビュー

都筑さんと仕事をしていく中で、障害者に対する理解が深まりました。



経営管理本部  
ビジネスマネジメントセンター  
採用センター  
後藤定夫さん

都筑さんのような全盲の人の雇用は初めてだったので、雇用前はどのように接したら良いのか分からず、仕事や通勤のことだけでなく、日常生活の些細なことまで全てが手探り状態だったと前任者から聞いております。

都筑さんの職場での様子や仕事ぶりを見て、眼が見えないハンデはありますが、少しの工夫で、自分たちと同じように仕事ができることがわかりました。工夫一つで、都筑さんの担当業務が増え、入社以来、着実に活躍の場が広がってきました。これからも、その智慧を出し合っていくのが楽しみです。

マイペースでコツコツと仕事をするのが私の基本スタイルです。



都筑夕貴さん

仕事で分からないことがあった場合は、その都度、周りの人に相談しながら進めています。勤務しているビルは、特別、障害者に配慮した設備はありませんが、問題なく勤務しています。事務所内も、最初に自席やロッカー、コート掛けの場所を教えてもらった後は一人で移動しています。

私の書いたレポートを読んでくださった方から、「ためになりました」「参考になりました」といった感想をいただくと、とても嬉しくなり、テーマの選定や文書をまとめる苦労も吹き飛び、次はもっとクオリティの高いレポートを書けるように頑張ろうという気持ちになります。また、今までできなかった仕事ができるようになり、仕事の幅が広がったときは、自分の成長を実感でき、達成感を味わうことができます。採用の仕事をしていきますので、内定された学生が入社してくる4月は、頑張っただけ良かったなと1年間を振り返る瞬間となります。